

駐日イスラエル大使 ギラッド・コーヘン様  
「パレスチナに平和を！全ての人びとを殺すな！」

10・16イスラエル大使館行動参加者一同

2023年10月16日

戦争の即時中止！ 誰も殺すな！ イスラエルはガザへの壊滅作戦を止めろ！

パレスチナの情勢が緊迫しています。今回のハマスによる大規模な攻撃をきっかけにイスラエルはガザの壊滅とパレスチナの全面占領を企て、総攻撃を準備しています。今にもこの殺戮が始まるかもしれません。あろうことか貴国のネタニヤフ首相は「怪物を根だやしにする準備ができています」と恐ろしい発言をしました。なんということでしょう。ガザに生きているのは「怪物」ではなく、230万人の人間です。すでにこの10日足らずで、多数のこどもをふくむ数千人の人びとが殺され、双方に膨大な数の死傷者が発生しています。

アメリカ艦隊が地中海東部に進出するなど、周辺では国際社会の各国はそれぞれあわただしく動きをみせています。第5次中東戦争勃発の危機といわれています。これは絶対に止めなくてはなりません。私たちはハマスによる今回の奇襲攻撃は容認できませんが、過去の歴史を振り返れば一貫して和平をもとめる国連決議と国際法を無視して武力による占領と入植を繰り返してきたことで今回の暴発を誘引した貴国の政権には重大な責任があると考えます。また結果として、これらを許容してきたアメリカ政府や日本政府をはじめ国際社会にも大きな責任があると考えます。

すでに貴国政府による最終の退避勧告がガザ市民に発せられました。いったいどこに安全な逃げ場があるというのでしょうか。退避先はありません。お年寄りや子どもたち、病人はどうやって移動するのでしょうか。あたかも監獄のように包囲され、水も食糧も電気もとめられ、医療機関も崩壊したガザで、いま大量虐殺の危機が迫っています。これはジェノサイドに他なりません。

報復戦争と殺戮は解決になりません。武力で平和はつくれません。この間のパレスチナとイスラエルの75年の歴史がそれを証明しています。イスラエルはただちに空爆と地上戦の準備をやめ、即時停戦に踏み切らなくてはなりません。

私たち市民は貴国政府に殺戮をやめ、戦争を即時中止することを要求します。  
以上、貴国大使館前に結集したすべての市民の心からの叫びであり、願いです。